

パトリシオ バレラ アルミロン

(東京外国語大学大学院)

要旨

本発表の目的はスペイン語語彙系クレオール言語であるパピアメント語の TAM 標識の一つ、ta の機能を明らかにすることである。パピアメント語の TAM 標識 ta と a はアスペクト・テンスのカテゴリを表すのか、アスペクトのみを表すのかの問題にされてきた。さらに、未完了相の意味的解釈には習慣相と進行相があるとされているものの、それらの解釈が何によって決まるのかは明らかではない。パピアメント語における ta を用いた進行表現を調査した結果、TAM 標識 ta 自体には「進行相」という機能がないことが分かった。「進行相」の機能は副詞句、動詞の形、否定の範囲といった要素によって決まるわけである。さらに、口語と文語の間には進行表現の使用に偏りが見られた。口語では進行を表す有標の表現を用いることが多い。それに対し、文語では動名詞をよく用いるが、進行表現としてではなく、主に独立句に用いることが分かった。

0. はじめに

パピアメント語¹では TAM (テンス・アスペクト・モダリティ) のカテゴリが主に動詞に先行する TAM 標識によって表される。そのうち、一部の状態動詞を除き、定形節における動詞は TAM 標識を伴わなければならない。TAM 標識のうち、ta というものの機能が問題にされてきた。TAM 標識 ta の機能の一つとしては「進行相」を表すことが挙げられてきた (Munteanu 1996: 349)。しかし、パピアメント語において進行相を表しうる表現が3つ存在する。それらは [ta + 無標の動詞]、[ta + 動名詞]、[ta bezig ta + 動詞] である。

1a) Mi ta kome 1b) Mi ta komie-ndo 1c) Mi ta bezig ta kome

1SG IPFV eat

1SG IPFV eat-GER

1SG IPFV busy IPFV eat

いずれも「私は食べている」

TAM 標識 ta が単独で「進行相」を表すことができるなら [ta + 無標の動詞] のみでも進行を表せるはずである。先行研究ではこの3つの表現の違いについてははっきりと記述されていない。本発表の目的は、これらの進行表現の違いから TAM 標識 ta に「進行相」を表す機能があるか否かを明らかにすることである。さらに、パピアメント語の口語と文語双方のデータを扱うため、文体による相違も記述する。

1. 背景知識・先行研究

1.1. では TAM 標識の体系を紹介し、本発表で TAM 標識 ta をアスペクトのみを表すものとして扱う理由を挙げる。1.2. では "ta" という形式の多義性について論じ、1.3. では動詞の活用をみる。

¹ カリブ海に位置する ABC 諸島 (アルバ島、ボネール島、キュラソー島) で話されているクレオール言語である。語彙の大部分はスペイン語とポルトガル語に由来しており、オランダ語に由来する語彙も有している (細川 1989: 215)。語順は SVO であり、名詞には屈折がない (Kouwenberg and Murray 1994: 19)。動詞には不定詞 (無標の動詞)、命令形、過去分詞、動名詞という屈折がある (Munteanu 1996: 325-378)。

1.1. TAM 標識の体系

パピアメント語の TAM 標識として、どの先行研究でも *ta*, *a*, *tabata*, *lo*, \emptyset が挙げられている。*ta* と *a* に関しては 2 つの解釈がある。1 つ目は *ta* が「現在・未完了」、*a* が「過去・完了」という、テンス・アスペクトの両方を表すという説である (Munteanu 1996: 349-350 を参照)。2 つ目は *ta* が「未完了」、*a* が「完了」という、アスペクトのみを表すという説である (Andersen 1990、Kouwenberg and Murray 1994: 42-44 を参照)。TAM 標識 *lo* についても「未来」と「非現実」という 2 つの分析がある。発表者の見解ではパピアメント語において「未来」は「非現実」に含意されている。

表 1: パピアメント語における TAM 標識の分析

TAM 標識	テンス・アスペクトを表す説	アスペクトのみを表す説
<i>ta</i>	現在・未完了	未完了
<i>a</i>	過去・完了	完了
<i>tabata</i>	過去・未完了	過去・未完了
<i>lo</i>	未来	非現実
\emptyset	接続法	接続法

本発表ではアスペクトのみを表す説に従う。その理由としては、発表者のデータには以下のような例があることが挙げられる。

2) Mi=n *ta* *sa*

1SG=NEG IPFV know

「私は知らなかった」

この文の *ta* は過去における出来事を表しており、TAM 標識 *tabata* と置き換えても意味が変わらない。さらに、*sa* 「知る」という動詞は、現在における状態を表す場合は TAM 標識 *ta* を伴うことができない。そのため、「*ta sa*」における *ta* はアスペクトを表す標識としてしか解釈できない。Andersen (1990: 68) は *tabata* について「過去形を表す *ta* の異形態である」としている。本発表では Andersen (1990) の主張に従い、*tabata* を *ta* の異形態として扱い、両方を区別しない際は "*taba(ta)*" という表記を用いる。

Munteanu (1996: 349) は、TAM 標識 *ta* には「発話時と同時に行われる動作」・「現在において繰り返される動作、あるいは習慣的な動作」、「発話時以後に行われる動作」、「未来において繰り返される動作、あるいは習慣的な動作」の機能があるとしている。

1.2. "ta" という形式

"*ta*" という形式には TAM 標識のほかに、コピュラ動詞としての機能 (Munteanu 1996: 332)、焦点標識としての機能がある (Muller 1983: 43)。本発表ではこの 3 つの機能を表す "*ta*" を 1 つの語彙素として扱い、これ以降全て「未完了」を表す "IPFV" という略号でグロスをふる。また、コピュラ動詞が過去における動作を指す場合は "*tabata*" という形で現れることがある。"*tabata*" には TAM 標識としての機能とコピュラ動詞としての機能がある。焦点標識として用いられる例も記述も管見の限りない。

1.3. 動詞の活用

パピアメント語における動詞には不定詞（無標の動詞）、命令形、過去分詞、動名詞という4つの形がある。本発表で問題となる動名詞は無標の動詞に **-ndo** という接尾辞がついた形である。しかし、Kouwenberg and Murray (1994: 20) によると、**-ndo** は基本的に **-a, -e, -i** で終わる動詞のみにつく。接尾辞 **-ndo** の語源はスペイン語・ポルトガル語に由来するが、オランダ語語源の動詞につくことはある (Kouwenberg and Murray 1994: 20)。オランダ語に由来し、子音で終わる一部の動詞にもつくことがある (Kouwenberg and Murray 1994: 20)。

例: スペイン語／ポルトガル語語源: kana 「歩く」 → kana-ndo
オランダ語語源 (母音終わり): zuai 「振る」 → zuaye-ndo
オランダ語語源 (子音終わり): fèrf 「ペンキで塗る」 → fèrfie-ndo

(以上の例は Kouwenberg and Murray 1994: 20 より引用)

Sanchez (2002: 238) によると、パピアメント語における動名詞は、迂言的な進行相 (periphrastic progressive) と独立句 (absolute clause) に用いられることがあるという。

3)(...)i kanta-ndo na bos altu el a bolbe kas 【動名詞の独立句機能】

and sing-GER at voice high 3SG PFV return house

「大きな声で歌いながら彼 (彼女) は家に戻った」

(Sanchez 2002: 238 より引用)

2. 問題提起

Munteanu (1996) は、TAM 標識 **ta** が無標の動詞を伴った形でも「進行相」が表されうるとしている。しかし、ほかに習慣相や未来における動作などの機能も認めているため、**ta** 単独で「進行相」を表す機能があるか否かは明らかでない。さらに、Sanchez (2002) によると、動名詞は迂言的な進行相 (periphrastic progressive) に用いられることがあるという。ほかに [ta(bata) bezig ta + 動詞] という構文がある。Lang (2000: 93) はこの構文を、進行を表す表現であるとし、その構成はオランダ語からの影響に由来しているという。**bezig** はオランダ語で「忙しい」を意味する形容詞であり、この表現は「～することで忙しい」と訳すことができる。なお、**bezig** は「する、続ける」を意味する動詞としても用いられることがあるため、**bezig** に先行する "ta" の機能を TAM 標識とみなしても間違いではないであろう。

4)Mi ta bezig ta bèl bo

1SG IPFV busy IPFV call 2SG

「あなたに電話をかけている」

本発表では [ta(bata) + 無標の動詞]、[ta(bata) + 動名詞]、[ta(bata) bezig ta + 動詞] という3つの構文間の相互言い換えが可能である場合と、可能でない場合とを分析する。3つの表現の相違を見ることによって、TAM 標識 **ta** 自体に「進行相」を表す機能があるか否かを見ることができる。さらに文体によって、用法の違いがあるか否かも確認できる。

3. 調査

3.1. 調査方法

口語データは "djis un tiki love" というドラマの全 8 話 (各話は約 25 分) のセリフを用いる。IMDb (Internet Movie Database) によると、"djis un tiki love" は 2016 年にキュラソー島の首都ウィレムスタット (Willemstad) で撮影され、主にパピアメント語が用いられている。このドラマのセリフをインフォーマントである J.C. 氏² に書き起こしてもらった。書き起こしたセリフは約 40,000 語からなる。

文語データとしては、キュラソー島で出版されている新聞である "Extra" の印刷版をインターネット上で見られるように購読した。印刷版の新聞を 5 部スクリーンショットに取り、Google Drive で OCR を掛け、資料を集めた。新聞の記事のみを扱い、形式上広告に見えるものは除いた。記事についている写真に説明を加えるテキストも除いた。ただし、1 つの記事が、写真とそれを説明するテキストからのみ構成されている場合は取り除かなかった。5 部の内容を合わせた文語資料は 121,308 語からなる。

口語データと文語データから抽出した用例において、[ta(bata) + 無標の動詞]、[ta(bata) + 動名詞]、[ta(bata) bezig ta + 動詞] という 3 つの形式間での相互の言い換えができるか否かをみる。この 3 つの構文に共通する ta の解釈の異なりを分析することにより、ta 自体が「進行相」を表せるか否か、「進行相」の解釈が動詞の形式によって左右されているか否かを判断できる。調査においてはインフォーマントの J.C. 氏に協力してもらった。

それぞれのデータから接尾辞 -ndo を伴った動名詞形を用いた例文および、[ta(bata) bezig ta + 動詞] 構文が用いられている例文を抽出した³。口語データからは [ta(bata) bezig ta + 動詞] 構文の例が 10 例、-ndo の例が 66 例得られた。文語データからは [ta(bata) bezig ta + 動詞] 構文の例が 3 例、-ndo の例が 506 例⁴得られた。調査は以下、(A)、(B) の 2 つの段階に分けた。

(A) では [ta(bata) bezig ta + 動詞] を用いた例をインフォーマントに見せ、[ta(bata) + 無標の動詞] 構文、[ta(bata) + 動名詞] 構文への言い換えが可能であるか否かを確認した。

(B) では抽出した動名詞の例をインフォーマントに見せ、[ta(bata) + 無標の動詞] 構文、[ta(bata) bezig ta + 動詞] 構文への言い換えが可能であるか否かを確認した。

なお、例文を挙げる際には、その右にその例文の許容度と該当する構文を示す記号を用いる。口語データの例には|S|、文語データの例|W|をつける。

+ 言い換えができる		G [ta(bata) + 動名詞] 構文
? その他 (違和感を覚えるなど)		B [ta(bata) bezig ta + 動詞] 構文
- 言い換えができない		U [ta(bata) + 無標の動詞] 構文

3.2. 調査結果

調査の結果を以下表 2 にまとめる。

² 生年: 1990 年、性別: 男性、出身地: キュラソー島、母語: パピアメント語、ほかに話せる言語: 英語、スペイン語、オランダ語

³ ta という形式には TAM 標識としての機能のほかに、コピーラ・焦点標識としての機能をもっており、ta に後続する語が無標の動詞であるか、形容詞や名詞であるかは形態法上判断することができない。そのため、有標の動名詞形と bezig のみを検索の対象とした。

⁴ 文語データにおいて動名詞を用いた用例は 506 例見つかっているが、調査では無作為に選出した 100 例のみを用いた。

表 2: 調査結果

[ta(bata) bezig ta + 動詞] の回答	口語	文語	[ta + 動名詞] の回答	口語	文語
[ta(bata) + 動名詞] に言い換えが可能	6	2	[ta(bata) bezig ta + 動詞] に言い換えが可能	55	60
[ta(bata) + 動名詞] に言い換えが不可能	3	0	[ta(bata) bezig ta + 動詞] に言い換えが不可能	9	38
その他	1	1	その他	2	2
合計	10	3	合計	66	100
[ta(bata) + 無標の動詞] に言い換えが可能	10	3	[ta(bata) + 無標の動詞] に言い換えが可能	56	66
[ta(bata) + 無標の動詞] に言い換えが不可能	0	0	[ta(bata) + 無標の動詞] に言い換えが不可能	8	34
その他	0	0	その他	2	0
合計	10	3	合計	66	100

この結果からは2つの明らかな傾向がみられる。1つは、[ta(bata) bezig ta + 動詞] という構文は文語よりも口語で現れることが多いということである（ただし文語データの分量は、口語データの約3倍である点を了承されたい）。それに対し、動名詞は文語においてより頻繁に用いられる。なお、文語データにおいて、ta もしくは tabata を伴わなかった例は506例（調査に用いた100例以外のものも含む）中291例（約57.5%）である。口語データにおいては66例中11例（約16.7%）のみが未完了のTAM標識ta(bata)を伴っていなかった。このことから、文語における動名詞は主にTAM標識を伴わない独立句であることが分かる。

[ta(bata) bezig ta + 動詞] の例は、オランダ語や英語に由来する動詞が用いられている一部のものを除き、[ta(bata) + 動名詞] とともに、[ta(bata) + 無標の動詞] とともに言い換えができる。そうした例のうち、1つ特殊なものとして、“ta bezig ta” の後に無標の動詞ではなく動名詞が用いられている例（5）が見ついている。このことから、[ta(bata) bezig ta + 動詞] と [ta(bata) + 動名詞] が対立する表現ではないことが分かる。

5)(...) tin kos=nan ku ta bezig ta bay-endo mas vlòt

have thing=PL that IPFV busy IPFV go-GER more fast

「早くなっているものがある」

[+ G, + U] |W

文語における動名詞形には、taを伴わず、慣用表現として用いられるものが多く見つかっている。そのうち、“mira”「見る」の動名詞形“mira-ndo”と“tene”「(一時的に)持つ」の動名詞形を伴った“tenie-ndo (na) kuenta”（6）が多く見られた。両方とも「～を考慮して」という意味で用いられ、[ta(bata) + 無標の動詞] とともに、[ta(bata) bezig ta + 動詞] とともに言い換えができない。

6) Ta bin a serka ku brantwer ta hopi severo

IPFV come PFV close that firefighter IPFV very severe

pa e konstrukshon nobo aki teni-endo kuenta no ku awor aki so(...)

to the construction new here hold-GER account NEG that now here only

「そのうえ、消防士は、ここだけでなく（中略）を考慮して、この建設に関してとても慎重である」

[- B, - U] |W

さらに、(7) のように、記事のタイトルでは、動名詞が **ta(bata)** を取っていないにもかかわらず、**[ta(bata) + 無標の動詞]** と **[ta(bata) bezig ta + 動詞]** とも言い換えができる。これは動名詞だけで定形動詞のように進行相的な動作を表すことができる証拠である。このような構文は文語でも記事のタイトルのような限られた文脈にしか見られなかった。

7) gobièrnu **bay-endo** 400 empleado den servisio

government go-GER 400 employee in service

「政府はサービス業の従業員 400 名と連絡をしている」

[+ B, + U] |W|

文語データで顕著に見られた動名詞の用法が 2 つある。その 1 つは、**[ta(bata) bezig ta + 動詞]** にも **[ta(bata) + 無標の動詞]** にも直接言い換えができないが、関係節内の無標の動詞構文 **[ku ("that") ta + 無標の動詞]** には言い換えができるものである。この構文に用いられる動詞には (8) のように具体的な帰属関係を表す動作 ("inkluye" 「含む」, "konsisti" 「～で出来ている」, "demostra" 「示す」) が好まれるようである。

8)(...) e organisashon, manera un "stuurgroep" **konsisti-endo** di "chef"=nan di e isla

the organization like a steering_group consist-GER of chef=PL of the island

「島のシェフたちからなる、運営グループのような組織...」

[– B, – U] |W|

文語データで顕著に見られた動名詞のもう 1 つの用法は「結果残存」の意味を表す動名詞である。これらは **[ta(bata) bezig ta + 動詞]** にも **[ta(bata) + 無標の動詞]** にも言い換えができない。結果を表す動詞 "finalisa" 「終わる」のほかにも、文脈的に結果を表す表現が文に含まれている場合もこの解釈が好まれるようである。例えば (9) において "terminá" 「終わる」に後続しているため、"bisa" 「言う」は動名詞の形で用いられている。

9)(...) asina Borrel a terminá **bisa-ndo**

like_that PN PFV end say-GER

「このように Borrel が最終的に発言した」

[– B, – U] |W|

(10) における "pasa-ndo" は **[ta(bata) + 無標の動詞]** に言い換えができない。J.C. 氏によると、"ta pasa" という表現は、条件節の結果となる動詞 ("kiko ta pasa [si ...]" 「～すれば何が起こるの？」 [si ...] が条件節) に用いられるという。この表現を英語に翻訳すると "what would happen" のようになり、モダリティを表しているようである。

10) Bryan kiko **ta pasa-ndo?**

PN what IPFV happen-GER

「ブライアン、何が起きているの？」

[+ B, – U] |S|

(11) は前述の結果に反して **[ta(bata) + 無標の動詞]** に言い換えができる。これは否定の範囲に関わっていると考えられる。J.C. 氏によると "ta pasa" でも現在進行の意味にしかない。「常に何も起こらない」という意味をどのように表すのか、という疑問について、J.C. 氏から副詞 "nunca" (英語の "never" に当たる) を用いなければならないという回答を得た。つまり、否定文における "ta pasa" が進行相を表すことができるか否かは否定の表現によって左右されているわけである。なお、否定の表現で

あるにもかかわらず (12) の "ta pasa-ndo" は無標の動詞構文には言い換えができない。これは "pasa" には「起こる」と「過ごす」という、語彙的アスペクトの違う 2つの意味があるからかもしれない。

11) si bo ta di opinion ku no tin nada ta pasa-ndo, (...)

if 2SG IPFV of opinion that NEG have nothing IPFV happen-GER

『今何も起こっていない』という意見をお持ちであれば、(中略)

[+ B, + U] |W|

12) situashon finansiero ekonomiko aki na Kòrsou sigur no ta pasa-ndo den su mihó tempu

situation finance economic here at PN sure NEG IPFV happen-GER in 3SG.POSS best time

「ここキュラソー島の金融と経済の状況は今一番いい時期を迎えていないことは間違いない」

[+ B, - U] |W|

4. 結論

調査の結果から以下の結論を導くことができる。

A) TAM 標識 ta 自体には「未完了相」という全般的な機能があり、「進行相」を表すかどうかは副詞や動詞の語彙的意味といった文脈から決まる。TAM 標識 ta を伴った特定の動詞が [ta(bata)+ 無標の動詞] 構文で未来における動作を表すか、現在進行している動作を表すかは否定の副詞、時間の副詞によって左右されることが分かった。

B) 文語においては ta を伴わない動名詞が多く用いられ、進行相を表す動名詞構文は口語に比べるとかなり少ない。この構文は副詞句として働くことが多い。なお、独立句として用いられている動名詞でも [ta(bata)+ 無標の動詞] に言い換えができるものがあり、同じ「独立句」であっても動詞によって異なるふるまいをすることが分かった。

C) [ta bezig ta+ 動詞] 構文の使用頻度は極めて低く、周辺的な構文としてみなすべきものである。副詞的な動名詞構文の用法以外には、[ta bezig ta+ 動詞] 構文への言い換えが基本的にすべて可能であることから、これは 3つの構文の中で一番純粋な進行表現であるといえよう。

略号一覧

1,2,3	1,2,3 人称	NEG	Negative	否定	PN	Proper name	固有名詞	
GER	Gerund	動名詞	PFV	Perfective	完了	POSS	Possessive	所有
IPFV	Imperfective	未完了	PL	Plural	複数	SG	Singular	単数

参考文献

Andersen, Roger William (1990) 'Papiamentu tense-aspect', in Singler, John Victor (1990) *Pidgin and creole tense-mood-aspect systems* pp. 59-97. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

細川弘明 (1989) 「パピアメント語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編 『言語学大辞典第 3 巻』 215-216. 東京: 三省堂.

Kouwenberg, Silvia and Eric Murray (1994) *Papiamentu* (Languages of the world/Materials 68) München: Lincom Europa.

Lang, George (2000) *Entwisted Tongues: Comparative Creole Literatures* Amsterdam: Rodopi.

Munteanu, Dan (1996) *El Papiamento, Lengua Criolla Hispánica* Madrid: Gredos.

Muller, Enrique (1983) 'Some specific rules in the Papiamentu syntax: From native language to foreign language' in Muller, Enrique (ed.) *Papiamentu, problems and possibilities* pp. 35-54. Zutphen: de Walburg Press.

Sanchez, Tara (2002) 'The interacting influences of Spanish and English on the creole Papiamentu' in *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 8 (3), 235-247.